

「グローバルCOEプログラム」中間評価 現地調査実施要領（案）

〔平成 年 月 日
グローバルCOEプログラム委員会〕

I. 調査の概要

1. 目的

現地調査は、評価委員が拠点現地に赴き、関係者との質疑応答及び研究現場の視察等を行うことにより、当該拠点の現状等を把握し、評価に資することを目的とする。

2. 実施主体

実施主体は、独立行政法人日本学術振興会グローバルCOEプログラム委員会分野別審査・評価部会とする。

3. 対象となる拠点

対象は、分野別審査・評価部会における書面及びヒアリング・合議評価により、現地調査が必要と判断された拠点とする。

4. 実施方法

調査者が現地に赴き、拠点より、書面及びヒアリング・合議評価に基づき事前に示す質問事項を中心に、拠点形成の進捗状況の詳細等についての説明を受けるとともに、研究現場を視察し、意見交換を行う。

5. 参加者

[調査者]

分野別審査・評価部会委員を中心とする数名で編成するグループ

[拠点]

- ・ 拠点リーダー
- ・ 出席可能な事業推進担当者
- ・ COE経費で雇用されていたRA等若手研究者（大学院博士後期課程学生を含む）（5名程度）
- ・ 当該拠点事務局職員（若干名）

6. 期間

1日（3時間程度）

7. 実施項目及び内容

- ① 拠点リーダー及び事業推進担当者からのヒアリング・質疑応答（90分程度）
調査者は、拠点リーダーから、事前に提示した質問事項への回答についての説明を受け、その内容を基に、他の事業推進担当者を交え、質疑応答を行う。
- ② 若手研究者との面談（30分程度）
調査者は、若手研究者との質疑応答により、実際の教育研究活動の状況等を把握する。
- ③ 研究現場・施設等の視察（30分程度）
調査者は、拠点からの説明を受けながら、研究現場等の視察をし、研究環境等の調査を行う。
- ④ その他、調査者が必要と判断する事項
- ⑤ 講評
調査リーダーは、調査終了時に講評する。

II. 調査実施後

1. 調査者は、調査によっても明らかとならなかった点、あるいは新たに生じた不明点等のために、必要に応じて書面による質疑応答を実施することができる。
2. 調査リーダーは、その結果をまとめ、別紙の報告書を作成し、分野別審査・評価部会に報告する。

III. 現地調査スケジュール（例）

以下のスケジュールは一例であり、実際は調査内容等により異なる。

≪14～17時が調査時間の場合≫

※各事項には移動時間も含む。

	事 項	所要時間
13:45	調査者、拠点到着	-
13:45～14:00	打ち合わせ（調査者のみ）	15分
14:00～15:30	拠点リーダー及び事業推進担当者からのヒアリング・質疑応答	90分
15:30～16:00	若手研究者との面談	30分
16:00～16:35	研究現場・施設等の視察	35分
16:35～16:50	打ち合わせ（調査者のみ）	15分
16:50～17:00	調査リーダーによる講評	10分
17:00	現地調査終了	-

「グローバルCOEプログラム」中間評価 現地調査報告書（案）

[分野名：]

作成者 _____

機関名・専攻等名		拠点番号	
拠点のプログラム名称			
拠点リーダー名			
〔調査者による報告事項及び意見等〕			
(報告事項) 現地調査により、書面及びヒアリング（月）における疑問点等がどのように明らかになったか。また、ヒアリング評価後に行われた「総括評価」についてどのようにお考えかお示してください。			
(特記事項：大学限り)			
〈留意事項〉			
〈参考意見〉			
〈その他（経費面等）〉			